

## 6. 算数学習の領域と育まれる見方・考え方

### 算数的な見方・考え方が広がる問題解決学習

	柱ど計算	陵ど足帝	図形	柱陵陥係	
1	※3			※4	
2					
3				※1	
4					
5			※2		
6					

※1  
「単元で大切にしたい見方・考え方」

※2  
「その学年の領域で大切にしたい見方・考え方」

※3  
「領域として大切にしたい見方・考え方」

※4  
「学年として大切にしたい見方・考え方」

#### 見方・考え方を系統的に横断的に

北数教小学校部会では、これまで学年部会での実践を中心に研究を進めてきました。実際の子供の姿から学ぶということが私たちの基本にあります。そして、

- 学年の発達に応じて、育むべき力を明らかにする
- めざすべき問題解決学習の在り方を明らかにする

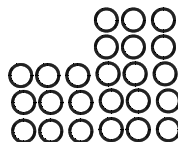
ために、「各学年の問題解決の指標」を明らかにしていきます。私たちの使命の一つはこの「各学年の問題解決の指標」を更に磨きあげ、時代の要請に耐え得るもの、いつの時代にも変わらない子供の姿として一般化に向かうものとしていくことと押さえています。

本研究で「子供の算数的な見方・考え方」にも焦点を当てることで、「子供のわかり方・理解のしかた」を発達を追って明らかにしようという試みともなっています。「○年生の算数学習で、どんな見方・考え方が身に付くか。培うべきか。」を踏まえた上で、どのような問題解決学習を作り上げていくかが問うていくのです。

学年の発達を追って見方・考え方の発展を考えることを仮に「縦の見方」とします。すると「横の見方」は、算数学習の『四領域』をまたがる「領域を超えて横断的に共通する見方・考え方」となります。それは領域内にある考え方の系統を明らかにし、子供の目を通して見直していく取り組みといえます。

例えば、2年生のかけ算《数と計算》の学習で○の数を工夫して求める活動と、4年生の面積《量と測定》で複合図形の面積を求める活動で、様々なアイデアを交流したときに、一つの考え方として浮かび上がってくるものに「無いところを、仮にあると考えると、後から引く」は共通しています。子供のわかり方、見方・考え方の系統として領域をまたがって適用できるものです。

○の数はいくつ？



面積を

求めましょう

